

<杵築市>令和6年度 学校評価の4点セット（自己評価・学校関係者評価）

学校名

杵築市立大内小学校

1学期

<別紙1>

学力状況				学習・指導の状況				いじめ・不登校の状況				体力の状況								
実態 各種 調査 結果	R5年度 市の学力状況調査（全国平均正答率を上回った観点） 4年 国語5／5 算数5／5 5年 国語5／5 算数4／5 6年 国語4／5 算数1／5			【学習の喫緊の課題】 ○理解しているが、時間が経つとできなくなる傾向がある。（定着が不十分） ○活用することや読解問題を苦手としている。 ○テストの喫緊の課題 文章の読解力が不足しているため要約や考察して書く力が弱い。 算数では、筋道を立てて考え、立式して計算することが苦手。			R3 いじめ 不登校	R3 認知件数 解消率%	R4 R4 20 75%	R5 R5 11 64%	【生活指導の喫緊の課題】 ○相手の気持ちを思いやる言動ができていない 児童が若干名いる。			運動愛好度 男子100%（5年） 女子50%（5年）	R5全国値以上種目数 27／48 38／48					
	内新規 復帰率%	0%	0%					0%	0%	0%	【いじめの解消率については、前年度より上がっていっているものの、まだまだ低い。】 ○いじめの解消率については、前年度より上がっていっているものの、まだまだ低い。				体力テストにおける握力・50m走に課題がある。 ○運動愛好度は、高学年ほど個人差がある。					
学校の教育目標 やさしく かしこく たくましく 筋道を立てて考え方表現する力	重点目標：めざす児童生徒像	達成指標			資質能力	担当	重点的取組				取組指標 誰が・何を・頻度	取組評価	達成状況の確認		考察・改善					
	知識技能	思考判断表現	学び人間性	育成を目指す資質・能力	知識・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	自分の理由をがつけて言える子 互いを認め合える子	考え方を深め合える子 何事にも意欲的に取り組む態度の育成	協力できる子 使うことしかできない言葉をする子	思考・判断・表現 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	授業改善テーマ 根拠をもとに自分の考えを表現できる子どもの育成。	取組内容 ・子どもたちが自ら解決したくなるような課題の設定 ・学年に応じた思考方法を身につけさせる	○教師が1日の授業の中で1回以上【考えの言葉】を意識した活動を設定する。 ○グループ（又はペア）の話し合い活動を算数のひと単元に2回以上設定する。			S	児童アンケートで「自分の考えを理由つけて言えた」の肯定的な回答が87.5% 教職員アンケートで「児童は自分の考えを理由つけて言えた」の肯定的な回答が100%	S	今後も「考えの言葉」を意識した活動を増やす。また、教師が授業の中で児童に使わせたい「考えの言葉」を想定し、より明確な指示を出すようにする。話し合い活動において、友だちの考えを聞き、質問したり自分の考えを伝えたる児童をめざす。	
	知識・技能	思考・判断・表現	学び人間性	育成を目指す資質・能力	知識・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	自分の理由をがつけて言える子 互いを認め合える子	考え方を深め合える子 何事にも意欲的に取り組む態度の育成	協力できる子 使うことしかできない言葉をする子	知識・技能 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	その他 学力向上 の取組		支援の必要な児童への支援の工夫	○教師は1日の授業の中で1回以上、児童の躊躇を想定し、必要な支援を用意する。			A	児童アンケートで「相手の気持ちを思いやる優しい言動ができた」の肯定的な回答が87.5% 教職員アンケートで「児童は相手の気持ちを思いやる優しい言動ができた」の肯定的な回答が90.9%	S	肯定的な回答は目標を上回ったが、優しい行動はできても言葉で伝えることが苦手な児童も若干名いる。今後も、人間関係づくりプログラムを充実させることで改善を図っていく。
	知識・技能	思考・判断・表現	学び人間性	育成を目指す資質・能力	知識・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	自分の理由をがつけて言える子 互いを認め合える子	考え方を深め合える子 何事にも意欲的に取り組む態度の育成	協力できる子 使うことしかできない言葉をする子	知識・技能 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	一校一実践テーマ めあてに向かって頑張ったことができた		サーキットトレーニングの充実 ○めあてを意識させた体育授業の実践	○教師が人間関係づくりプログラムの場で、子どもの心に響く実践を月に2回以上行う。 ○教師が優しい言動ができた児童を評価する声かけを1日に1回以上する。また優しい言動をした児童を評価する場を設ける。 ○教師が、縦割り班活動や集会活動の中で、優しい言葉で交流する場（話し合いや振り返りの会等）を週1回以上設定する。			A	児童アンケートで「体育の授業や体力アップカードで立てるためあてに向かって頑張ったことができた」の肯定的な回答78.6% 教職員アンケートで「児童は、体力アップのめあてに向かって頑張ったことができた」の肯定的な回答100%	A	教職員は頑張りを認めているが、頑張りを自覚できない児童もある。めあてに対してどうであったかという「達成」だけでなく、児童の頑張る過程を教師が認めたり、それを積極的に伝えたりするようとする。
	知識・技能	思考・判断・表現	学び人間性	育成を目指す資質・能力	知識・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	自分の理由をがつけて言える子 互いを認め合える子	考え方を深め合える子 何事にも意欲的に取り組む態度の育成	協力できる子 使うことしかできない言葉をする子	知識・技能 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	地域 (学校運営協議会)		環境安全推進部 学習支援部	○教師は授業中に週1回以上【考えの共有】 【ふりかえり】等でタブレットを活用する。 ○授業中のタブレットの効果的な活用 ○めあてを意識させた体育授業の実践			A	児童アンケートで「タブレットを学習に生かせた」の肯定的な回答80.4% 教職員アンケートで「教師は授業中に週1回以上【考えの共有】 【ふりかえり】等でタブレットを活用する」の肯定的な回答が90%	S	学習の中でICTを使っている。学年間に差があるため教職員のICTの効果的な活用についての研修を行う。また「タブレットを学習に生かせた」の基準を明確にし、共通認識できるようにする。
	知識・技能	思考・判断・表現	学び人間性	育成を目指す資質・能力	知識・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	自分の理由をがつけて言える子 互いを認め合える子	考え方を深め合える子 何事にも意欲的に取り組む態度の育成	協力できる子 使うことしかできない言葉をする子	知識・技能 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	担当 家庭 地域 (学校運営協議会)		重点的取組	評価	○登校時の安全指導と声かけ運動 ○地域交流計画の実施と読み聞かせ・ゲストティーチャーなどの学習支援			考察・改善		
	知識・技能	思考・判断・表現	学び人間性	育成を目指す資質・能力	知識・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	自分の理由をがつけて言える子 互いを認め合える子	考え方を深め合える子 何事にも意欲的に取り組む態度の育成	協力できる子 使うことしかできない言葉をする子	知識・技能 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	家 庭		○登校時の安全指導と声かけ運動 ○地域交流計画の実施と読み聞かせ・ゲストティーチャーなどの学習支援	評価	○児童・保護者の安全意識の向上 ○地域交流計画の実施による学習支援 ○登校時の安全指導による声かけ運動 ○地域交流計画による学習支援			考察・改善		
	知識・技能	思考・判断・表現	学び人間性	育成を目指す資質・能力	知識・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	自分の理由をがつけて言える子 互いを認め合える子	考え方を深め合える子 何事にも意欲的に取り組む態度の育成	協力できる子 使うことしかできない言葉をする子	知識・技能 他人とも思ひやりを持って協力する力の育成	地域 (学校運営協議会)		○登校時の安全指導と声かけ運動 ○地域交流計画の実施と読み聞かせ・ゲストティーチャーなどの学習支援	評価	○児童・保護者の安全意識の向上 ○地域交流計画の実施による学習支援 ○登校時の安全指導による声かけ運動 ○地域交流計画による学習支援			考察・改善		

※ 取組状況評価 (S : 100%超 A : 80~100% B : 80%未満)

※ 達成状況評価 (SS→S SA→A AA→A SB→A AB→B BB→B)